

ハバネロ友の会 会報

7月号

2011年 7月 13日

ハバネロ友の会会員様

梅雨も明け、毎日30度を越す暑い毎日ですが、皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

人間にとっては猛暑と言うことで厄介な天候ですが、メキシコ原産のハバネロにとっては、太陽をいっぱい浴びて育つ何よりも適している気候ですので昨年とは、まったく裏腹にどんどん成長して来ております。

上手くいけば例年より2週間程度は約収穫できるのではないかと楽しみにしております。

ハバネロ友の会事務局

トピックス

新情報や季節
の話題イロイロ。
海外の話題も掲
載中。
メール会員募集
中。

ハバネロの実が付きはじめました。



目次:

事務局よりお知らせ	2
信州からの唐辛子便り	3
バングラディッシュからの便り	4
岡さんのメキシコレポート	5
MUTTSUNN通信	6
児島さん投稿	7
ハバネロ料理	13



株全体に花が咲いています。



1株に何個かは実がついてきました。

篠ファームハバネロ担当

「ハバネロメルマガ会員」ご参加お勧めください。

ハバネロに関心を持たれておられる方がお近くにおられましたら是非お誘いください。
申込みは簡単で、ホームページより申込みに必要事項をご記入頂き、事務局へお送りしていただくだけで登録完了です。また、いつでも退会出来ますのでお気軽にお申込みください。
メルマガ会員の方には特典も考えております。

http://www.shinofarm.jp/habanero_tomonokai.htm

会報誌の郵送ご希望の方は1年間分の郵送料と印刷代(モノクロ)・封筒代2,000円を申し受けますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。送金は郵便振替(払込取扱票)にてお願いいたします。

* 口座は 00900-7-122727 ハバネロ友の会です。
(振込み手数料はご負担ください。)

ハバネロ友の会事務局

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

ご自分の会社やお店の宣伝・自己紹介など、案内したい内容がありましたら
どんどん投稿してください。行政関係の方も投稿お待ちしております。
ハバネロ以外でも全く問題ありませんので、会報誌を活用していただけたら幸いです。
原稿の締め切りは、毎月5日までお送りいただけましたら幸いです。
当月の10日頃をめぐりに、会報誌に掲載して配信致します。
原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」とお伝えください。

ハバネロ友の会事務局

信州からの唐辛子便り

信州大学大学院農学研究科 松島憲一

世界で一番辛いのは？

ポプラ社から隔月で発行されている『旬がまるごと』という雑誌がある。毎回、一つの食材にクローズアップしてその食材について広く深く掘り下げるといふ、なかなか興味深い雑誌である。実はこの雑誌の次号(7月20日発売)が唐辛子の特集なのである。私や篠ファームさんにも取材が入っているので唐辛子ファン必読の号となることは間違いがない。

(<http://www.0510food.com/>)

この雑誌の特集の中で唐辛子の辛さランキングを掲載したいので、実測値があれば作成して欲しいとのご依頼を頂いた。そこで、我々の研究室で、これまで栽培試験をおこなってきた320品種・系統の唐辛子の辛味成分カプサイシノイド(カプサイシンとその同族体の総称)含量データの中から一般的な品種を選び出してまとめ、ランキングを作成してみた。カプサイシノイド含量の測定はHPLC(高速液体クロマトグラフィー)という機械で定量分析を行って得られたものである。かなり正確である。このランキングにおいて最も辛いものは、我々の研究室で「系統番号S3010」と呼ばれているミャンマー産の唐辛子で、ちょっと前まで世界一辛いとされていたブートジョロキアと同じ仲間の唐辛子である。この品種は紡錘型の果実で、その表面には凶悪な虫類を思わせる細かい突起が一面にあり、いかにも悪人面をした唐辛子なのである。そして2位はおなじみのハバネロなのだが、これらの上位にランキングされる品種・系統はいずれも*Capsicum chinense*に属する系統品種である。最近、オーストラリアの唐辛子愛好家が世界一辛い品種としてギネス登録したトリニダード・スコピオン・ブッチ・テイラーという唐辛子もおそらくは*Capsicum chinense*であろうと思われる。ネットニュースなどで示されたこの品種のスコピル値(唐辛子の辛さを示す値)を見ると、にわかには信じられない様な恐ろしい数値が記されている。また、この唐辛子は辛いだけでなく形もユニークなのである。ニット帽を深くかぶったような果実型でその果実先端から細く尖った「尻尾」が少し曲がって飛び出ているのだ。この尻尾の存在がスコピオンと名付けられた理由のようだ。示されたスコピル値が正しければ、もう既に食べ物の域を脱している辛さだと思う。これは食べるために存在する唐辛子ではなく記録に挑戦することだけが目的の唐辛子のように思える。



第1位のブートジョロキアの仲間S3010



第2位のハバネロ

筆者サイト「喰いしごき調査委員会」(<http://saitamaya.net/carlos/>)

「喰いしごき調査委員会mixi版」(http://mixi.jp/view_community.pl?id=656317)

twitter (<http://twitter.com/#!/CarlosThePepper>)

Bangladeshからの便り 7月号



発展途上が著しい Bangladesh、富裕層が増える一方で貧困層も増える。

ある Bangladesh人の友人の結婚式に招かれ出されたご飯を食べていると、布で仕切られた外側からいくつも小さい手が伸びている。彼らは、結婚式に招かれぬ貧困層の子供たちだ。普段、肉や魚を食べることのできぬ貧困層が、食べ物の物乞いをしているのだ。式に招かれた者たちは、日本人の私に群がる子供たちを叱りつけ追い払うが、数十秒もするとすぐに戻ってきて、私の後ろで待機している。私が何かを残すことを期待して待っているのだ。そんな状況なのでゆっくり食べていられない。わざと肉と魚に手を付けず席を

立つ。彼らは私の(きれいな?)残飯を漁りポリ袋に入れ、うれしそうに去って行く。

今はただ、彼らの幸せを祈ることしかできない。



Ryo Takeuchi

岡さんのメキシコレポート

今回は、メキシコの1年で感じたメキシコの感想を書きたいと思います。まず、皆さんがイメージされるメキシコはどんなものでしょうか。やはり、とんがり帽子にサボテン、さらに唐辛子、性格は陽気でお祭り好きといった感じでしょうか。私も実はそうでした。ただ一年いて、その固定概念は表面的には正解であっても、実際はそうではないということに気づかされました。500年前のスペイン侵略に始まり、200年前の独立戦争、100年前の革命と、私たちのイメージを一瞬で吹き飛ばすほどの恐々たる過去を持っています。表面的には確かに明るく、週末は盛大にお酒を飲み、大騒ぎをしています。ただ、深い部分での彼らはどうかというところではないと思います。ある一定の関係から一步先に進もうとすると、その都度何かが邪魔をして、それ以上の関係になれない。そんな印象を受けます。表面的には明るくても、深い部分では深刻な何かをかかえているのではないかと思います。では、なぜそうなるのかを考えたときに、上記で挙げた3つの出来事が大きくかかわってくると思います。スペインに侵略され、言葉や文化を奪われ、奴隷のような生活を余儀なくされ、独立後も独裁主義の大統領によって自らの国を傷つけなければならなかった。それらの出来事によって彼らは傷つき、表面的に少し無理をして明るく振る舞わなければならなかったのではないかと考えます。「少し工夫すればもっと良くなるのに」と思うことも、何かにつけて「しょうがない」という言葉で簡単に片づけてしまいます。彼らの中にはきっと様々な感情が入り混じり、意識していても彼らの文化として根付き、自然と出てしまっているのではないかと思います。とはいえ、メキシコ古代文明とスペイン植民地時代からの文化の融合による街並みや、彼らの人の良さ、それらは本当に心温まる素晴らしいものばかりです。ただ、メキシコの歴史を知り、文化を知り、自ら感じたこの感覚でメキシコをもう一度良く見ると、また違った興味深さがあります。外国に1年入れて最もよかったと思うことは、やはり彼らを知れたことだと思います。日本にいては、決して味わうことのできない彼らの性質を肌で感じ経験できたことは、これからの私にとって一生の財産となるに違いありません。当会報誌にて、よく書かせていただいておりますが、やはり実際に見てみることで、聞いたことでは大きな違いがあると思います。メキシコの風景、人々の情熱に触れてみるときっとたくさんのインスピレーションが得られるに違いありません。メキシコだけでなくその国その国にきっと皆さんが感動するような何かがあると思っています。ぜひ外にでられて、色んなものを感じてくださいね。

では今回はこのあたりで失礼します。

写真左(独立記念塔)

写真右(革命記念塔)



MUTTSUNN通信

九州は梅雨が最後の悪あがきをしているようで、灰色のどよ～んとした空が目立ちます。みなさんはこんな季節はどのように過ごされているのでしょうか？

私は九州の名所である大宰府天満宮を訪れました。ご近所ということもあって、初詣や梅の時期によく訪れている大好きな場所です

普段なら雨の日なんてまず外に出ないのですが、今回は特別！日本に来ているラテンアメリカ(チリ、メキシコ、コロンビア)からの友人5名に福岡の素晴らしさを紹介するために張り切りました！

しかし、はじめは小雨がしとしと、お昼をとっている間にザーザーと音を立て始めて結局どしゃぶり…

足場は悪いし、すっかりしょげていたところに池の中で咲き乱れるが現れて、みんなも私も急にテンションアップです！

いつもと違う時に、いつもと違う場所に行く…今まで気がつかなかったことに気づけて…何か得した気分です



mutsumi

ハバネロ通信 7月号

児嶋きよみ(Office Com Junto)

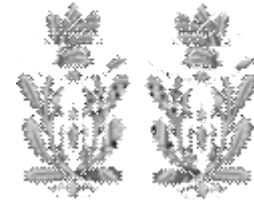
global session 6月report (財)亀岡市交流活動センター

期日:2011年6月25日(土) 10:30 ~ 12:00

ゲストspeaker: Paul Busshellさん

(南アフリカ出身/高校ALT)

Coordinator: 近藤 正さん



参加者: ボストン(USA)からのスカイプ参加者2名も加わり、
合計17名

いつものように、Coordinatorが司会をし、簡単な自己紹介から始まりました。初めての方も、長くご無沙汰だった方もいて、いつも最初に名前と今興味があることなどを話していきます。

英語でも日本語でもOKで、助け船も出ます。中には、Fさんのように「以前自宅にホースステイをした学生が、英国出身で、その人の結婚式に英国に夫婦で参加したことがあるので、とても今日のテーマに興味がある」と言う方もいました。また、Hさんのようにここ、毎年、英語の夏期講習で英国に短期滞在している方もいます。Aさんのように英国の歴史に興味がある方もいました。

さて、Paulさんのテキストによれば「、英国のPrince WilliamとKate Middletonさんの結婚式は、メディアでも大きなイベントで、数百万人以上の人たちがテレビやインターネットでその様子を見守り、ロイヤルファミリーが公的な資金を使う権利について批判もありました。」

「呼称についても、日本では単に、イギリスとか英国とか、言われていますが、「Windsor」(ウインザー)というのは、英連邦のロイヤルファミリーの名称です。英連邦王国というのは、昔の英国の植民地も含まれていて、カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・ジャマイカなど11カ国が入っています。けれども、ウインザーという名称は、単に1917年以来使われてきたもので、それ以前は、「Saxe-Coburg-Gotha」でドイツのロイヤルファミリーとのつながりがあったため、英国のロイヤルファミリーは、第一次大戦後、名称の変更を決めました。

ウインザー家の首長はもちろん、エリザベス二世であり、彼女は1952年以来59年間にわたり女王を務めています。これは、英国史上、女王も王も含めて第2位の長さです。女王としての職務というのは、憲法上の君主であり、英国教会の長であり、英連邦(54カ国の以前の英国植民地であった国々)の組織の長でもあります。女王とその家族は、名目上の長であり、

公的な代表としての任務を務めています。女王は、1991年～2011年の間には、年間7.9ミリオンポンドを国から受け取っています。(日本円:1ポンド=129.99円 2011年7月5日現在) その他、宮廷のセキュリティ経費や維持費で22ミリオンポンドが使用されています。私的な財産も多いのですが、個人の所有物ではないので、売ることはできないのです。多くは国有財産であり、その利息も莫大なものですが、国に支払われ、国の予算として使用されます。ただし、2013年からは女王は国から資金の提供を受けず、そのかわりに国から、利息の中からシェアをするようになります。しかしながら、ロイヤルウェディングのような特別なイベントが開催されるときには、特別予算が国家によって組まれてきました。



今回のWilliam王子とKate Middletonの結婚式のケースには、合計20ミリオンポンドが見積もられました。英国政府は10ミリオンポンドを輸送、セキュリティ経費、清掃費等に見積もり、その10%が国民の税として見積もられています。その他の経費は新婦と新郎との支払いによります。

今もなぜ、ひとつの家族が結婚式のために政府からお金を受け取らなければならないのか、または、ロイヤルファミリーに生まれたと言うだけで政府から資金を受け取ることになるのかと疑問を投げかけています。

これらの疑問に答えるために、ロイヤルファミリーを支持する人たちは、この結婚式で、英国への旅行者が増加し、支出も増え、英国の経済やイメージも好転すると主張しています。また、ロイヤルファミリーは英国の人々にとって、重要なシンボルであり、困難な時期には英国国民を支持してくれたと信じています。

一方では、ロイヤルファミリーに支払うのは、古いしきたりであり、お金の無駄であるという意見もあります。

もちろん、このような論争は新しくもなく、英国だけのものではありません。世界の中のロイヤルファミリーは国家から資金の提供を受け、以前より力や資金は少なくなって来ています。また、人々はもっと少なくすべきとの意見も持っています。

しかし、ウィンザー家の先日の結婚式では、すべてのメディアの関心を引き、多くの人々が尊敬の念か、興味を持っているように見えます。英国のようなロイヤルファミリーは、多少の変化はあるとしても、このような支援を受け続けるのではないかと思います。」

少しずつPaulさんにcoordinatorの近藤さんが、読んでくれるよう促しながら、discussionも続いています。その間の話題は、

* ロイヤルファミリーの資金とか、予算などが詳しくてびっくりという意見が出ました。Paulさんによると、インターネットで簡単に取り出せるそうです。

* 日本のロイヤルファミリーの総予算など、日本ではほとんど知らないし、聞くのも失礼かと思う雰囲気があるとかの意見も出てきました。英国の周りの海の魚も女王の持ち物で、人々はそれに税金を支払って手に入れているという考え方だそうです。

* また、ヨーロッパのロイヤルファミリーは、さまざまな国々の政略結婚を繰り返し、ヨーロッパ中が血族のようなものであるとか。日本の皇族との比較も出ました。

* シンガポール出身のイン・チェンさんもシンガポールでもみんなが興味を示し、テレビを見ていたらしいと言っていました。でも、植民地であったからという訳ではないと思うとも言っていました。それは、南アのPaulさんも同じ意見でした。

今回は、以前にも増して、discussionは、結構激しく、日本の皇族が未だに触れられないベールの中にあるような、ないような状態から見て、さまざまな、資金を含めたinformationをオープンにしている英国に対しての驚きがありました。このちがいは、いったいどこから来るのでしょうか？



Paulさんの英語は、話すスピードが遅いわけではないのですが、「聞き取りやすかった」という意見が多くありました。シンガポールのイ・チェンさんも英語が公用語にもなっている国の方でもあり、お互いの通じる英語で1.5時間があっという間に過ぎました。

Royal obsession

Paul Bushell

It has been a big year for royal-lovers around the world. The wedding of Prince William and Kate Middleton (now the Duke and Duchess of Cambridge) was a big media event, causing excitement and debate around the world. While millions of people watched the big-day on televisions and the internet, others have criticized the rights of royal families to use public funds and get so much attention.

'Windsor' is the family name of the royal family of Great Britain and the Commonwealth realms. The Commonwealth realms include previous (but not all) colonies of Great Britain, such as Canada, Australia, New Zealand, Jamaica and 11 other countries. The name 'Windsor' has only been the royal family's name since 1917. Before this, it was 'Saxe-Coburg-Gotha'. But because of its connection to German royal families and the events of World War I, the British royal family decided to change their name. The head of the 'Windsor' family is now of course Queen Elizabeth II, who has been Queen since 1952. In her 59 years as Queen (the second longest by any British queen or king), Elizabeth II has become famous around the world.

Her job as Queen is to be a constitutional monarch; head of the Church of England and; head of the Commonwealth (an organization of 54 countries that were colonies of Great Britain). Because she is a constitutional monarch she has little power over the government of Great Britain, and even less over the Commonwealth realms. The Queen and her family are seen as figure heads, working mostly as official representatives of their country and for various charities.

The Queen receives funding from the state for her work as monarch. From 1991-2011, the Queen received 7.9 million pounds per year from the state. The state also pays a separate amount for the running of her palaces, transport and security, which equals about 22 million pounds per year. Other members of the

royal family who work for The House of Windsor also receive funding from the state, but the

pays this money back to the Queen's personal investments. There have been

Queen's substantial



Queen

to the state. Most of her wealth comes from various sources.

There have been various estimates of the

personal wealth, but it is important

to remember that most of the royal family's property and assets do not belong to the Queen and cannot be sold. These are seen as national treasures, and they are run as an estate. In 2008, this estate was valued at 7.3 billion pounds, and in 2009/10 it made a profit of 211 million pounds. The profits of this estate are paid to the state and used in the running of the country. From 2013, the Queen will no longer receive funding from the state, but rather a share of the profits made from this estate. However, when there are special events like the Queen's Silver jubilee (to be celebrated in 2012) or a royal wedding, the Queen has in the past been provided special funding from the state to cover some of these costs as well.

In the case of Prince William and Kate Middleton's wedding, it is estimated that the wedding cost a total of 20 million pounds. It is estimated that the British government spent 10 million pounds on transport, security and cleaning on the big day - a cost of 10p per tax payer in Great Britain. While the families of the bride and groom paid for all the other expenses. Still, some people have questioned why one family should receive money from the government to have a wedding? Or, why some people should get so much funding from the government just because of the family that they are born into?

To answer these questions, people who support the royal family believe that events like the royal wedding increase tourism and spending, which are good for the British economy and image. They also believe that the royal family is an important symbol and support for the British people, especially in difficult times. On the other hand, some people believe that paying for a royal family is old-fashioned and a waste of money.

Of course, these kinds of debates are not new or unique to Great Britain. There are many royal families around the world who get funding from their states. And

even though many of these families have less power and money than before, some people believe they should have even less. But, looking at the pictures from the Windsor's recent wedding (and all of its media attention), it seems as if there are still a lot of people who respect and are interested in the British royal family. And so long as royal families, like the British royal family, continue to get this kind of support, it seems as if little is going to change soon.

次回: 7月30日(土) 10:30 ~ 12:00

ゲストspeaker:

ジェニファさん(京都府国際課 国際交流員)



Coordinator: 募集中

topicsのテキストは後日、
一週間前までにお送りします。

お問い合わせ・お申し込み

(財) 亀岡市交流活動センター

〒621-0242 亀岡市宮前町神前長野15

tel: 0771-26-5001 fax: 0771-26-5002

e-mail: main@kkoryu.com

マネージメント: 児嶋きよみ

ハバネロ友の会 事務局

〒621-0008
京都府亀岡市馬路町狐瀬20-1
篠ファーム内

info@kyoto-habanero.com

Fax 0771-24-7885



「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

自分のところの会社やお店の宣伝など、案内したい内容がありまましたら是非、投稿してください。行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全然問題ありませんので、活用していただけたら幸いです。
原稿の締め切りは、毎月未までに頂きました原稿は、翌月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。

原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

ハバネロ料理コーナー

いかと夏野菜の炒め物

材料

むきいか
いんげん豆
トマト
塩 胡椒 ゴマ油

作り方

フライパンを熱し、ゴマ油を入れ、いんげん豆、イカ、トマト、の順番に炒めていき、塩と胡椒で味付けをする。
食べる時に好みでハバネロラー油を掛けて食べる。

